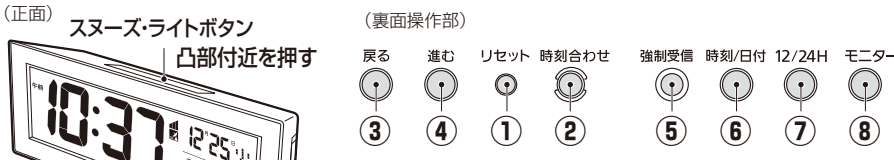




電池は付属しておりません。単2形アルカリ乾電池を2個ご用意ください。

## 各部の名称と役割

※図は操作説明用ですので、実際のものとは異なることがあります。



- ①リセット 誤作動を防ぐために電池を入れた直後に押す。爪楊枝など細い棒状のもので押してください。2011年1月1日午前12:00 アラーム時刻午前6:00に設定されます。受信機能がONのときは受信を開始します。
- ②時刻合わせ 手動で日時を合わせるときに使用。
- ③戻る アラーム時刻や手動で日時を合わせるときに使用。
- ④進む 押してすぐ離すと1つ、押し続けると連続して変わる。
- ⑤強制受信 すぐに電波の受信を開始させたいときに押す。
- ⑥時刻/日付 時刻と日付の表示位置を切り替え。
- ⑦12/24H 12時間と24時間表示の切り替え。
- ⑧モニター アラーム音を試聴するときに押す。

※電池のセットやボタン操作をするときは裏カバーを取り外してください。

**注意** 電池は必ず電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて入れてください。指示と逆向きに入れると液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

## 1 電池を入れて、標準電波を受信して日時を合わせる

標準電波を利用しないで、手動で時刻を合わせるときには、**手動での時刻合わせ**をお読みください。

### 【受信の流れと表示】

(リセットボタンを押した直後)

08:88

(受信開始)

12:00

電池を入れた直後やリセットボタンを押した直後は、2011年1月1日 午前12:00、アラーム時刻 午前6:00に設定されます。

受信マークの変化 (電波サーチ機能)

電波の状態により変化します。

受信できない → 受信しやすい

① ② ③ ④

**チェック!**

1〜2分経過しても①または②の受信状態が続く場合は受信できません。場所を変えてリセットボタンを押し、再度受信を開始させてください。

最長20分後 (受信終了)

(表示例)

受信成功 受信マークが点灯

失敗! 受信マーク消灯

●受信マークは受信成功後、24〜25時間点灯。  
●受信に成功しても、電気的なノイズにより誤った時刻や日付を表示することがあります。このようなときには、場所を変えてリセットボタンを押して再度受信を試みてください。

電波を受信しやすい窓際などに置いてください。

- ① 電池を2個入れる
  - ② リセットボタンを押す 受信マークが点滅し受信を開始します。※誤作動を防ぐため必ず押してください。※受信中はボタンに触れないでください。
  - ③ 20分待つて受信結果を確認する 受信時間は最長で20分です。受信マークで受信結果を確認してください。【受信の流れと表示】参照
- 電池を入れたときやリセットを押すと短く電子音が鳴ります。電波受信機能がOFFのときは電子音は鳴りません。

### 電波受信中のボタン操作について

電波の受信中に**進む**または**戻る**ボタンを押すか、時刻合わせボタンを約2秒間押し続けると、受信マークが消灯して、受信を中止します。

### 電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った日時を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの地下、ビルの中、ビルの谷間など
- 高圧線、テレビ塔、電車の架線近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く

## 標準電波を受信できない場合

- 朝までそのまましておく 一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくと受信できる可能性が高くなります。
- 場所を変える/受信をやり直す 電波の受信しやすい窓ぎわで取扱説明書の日本地図を参考にして、電波の送信所に時計の正面または裏面が向くように置き直し、リセットボタンを押して結果を確認します。

標準電波を受信できないときには、手動で日付と時刻を合わせてご使用ください。

## 手動での時刻合わせ …電波が受信できないとき、任意の日時に合わせるとき

操作例に従って、西暦年、月、日、時刻(時、分)の順に設定します。

西暦年、月、日、時刻(時・分)でのボタン操作

数値を進むまたは戻るボタンで合わせてから時刻合わせボタンを押します。

操作	押してすぐ離す	押し続ける	戻る	進む	リセット	時刻合わせ
進む	1つ進む	早送り	戻る	1つ戻る	早戻し	

操作例. 2018年12月25日 午前10:37に合わせる

①西暦年 設定対象が点滅します。

20 11

②西暦年 ③月 ④日

20 18

⑤時 ⑥分 秒

10:37

①西暦年が点滅するまで時刻合わせボタンを約2秒間押し続ける。

②西暦年を進むまたは戻るボタンで合わせて、時刻合わせボタンを押す。

③月を進むまたは戻るボタンで合わせて、時刻合わせボタンを押す。

④日を進むまたは戻るボタンで合わせて、時刻合わせボタンを押す。

⑤時を進むまたは戻るボタンで合わせて、時刻合わせボタンを押す。

⑥分を進むまたは戻るボタンで合わせて、時刻合わせボタンを押す。

以上で設定は終わりです。

※秒は、⑤⑥で進むまたは戻るボタンを押すと「00」になります。

- 約30秒間ボタン操作をしないと、表示されている内容に設定して、時刻合わせを終わります。
- アラームが鳴っているときやアラーム時刻またはアラームマークが点滅しているときは、時刻合わせボタンを押しても日時の設定には切り替わりません。
- 電波受信機能がONの場合、手動で時刻合わせをしても自動受信を行い、受信に成功すると日時を修正します。
- 標準電波を受信できないときの時間精度はクォーツ精度になります。

## 2 アラーム機能を使う

### アラーム時刻を合わせる

アラームスイッチ

①アラームスイッチをOFFにする

②進む/戻るボタンを押してすぐ離す 「アラーム」が点灯して、アラーム時刻が点滅。

③進む/戻るボタンでアラーム時刻を合わせる 操作 押してすぐ離す 押し続ける

進む 1分進む 早送り

戻る 1分戻る 早戻し

④約5秒間ボタン操作をしないと設定を終わる

12時間表示のときは 午前/午後の表示に注意

### アラームスイッチのON/OFF設定

ON 設定時刻にアラームが鳴る

OFF 止める 鳴らさない 曜日は表示されません

○アラームスイッチをONにすると、アラームマークとアラーム時刻を表示します。

○アラームを使用しないときはOFFにしてください。OFFにしないと毎日アラームが鳴ります。

■オートストップ機能(自動鳴り止め) 鳴っているアラームを放置すると約2分間鳴って止まります。

■アラーム音の試聴 モニターボタンを押すと約2分間アラームが鳴ります。途中で止めるには、再度モニターボタンを押してください。

●電波の受信中や日時、アラーム時刻の設定中、アラーム状態では使えません。

■スヌーズ機能(止めてもまた鳴る) アラームが鳴っているときに、スヌーズボタンを押すと、アラームマーク(●)が点滅して約5分間アラームが停止してからまた鳴りだします。この操作は7回まで繰り返すことができます。8回目にスヌーズボタンを押すとアラームは停止し、アラームマーク(●)は点灯表示になります。

### 表示の切り替え

12/24Hボタンを押すと時刻の表示形式が変わります。

時刻/日付ボタンを押すと表示位置が変わります。

12時間表示 24時間表示

時刻優先 日付優先

この表示部は、アラームスイッチがONのときはアラーム時刻が表示され、日付または現在時刻を表示しくなります。

●電波の受信中や日時、アラーム時刻の設定中、アラーム状態では使えません。

### 液晶表示の照明と角度調節

自動点灯 (裏面) 点灯 自動点灯 OFF 消灯

自動点灯スイッチをONにすると、明暗センサーと連動して、暗くなると液晶表示面を照明します。

角度調節 照明されているときは、正面やや上方より見てください。他の方向から見ると読み取れないことがあります。下図のように、スタンドを引き起こすと角度を変えることができます。

電波を受信しやすくするため、**電波を受信しているときは消灯します。** 昼間や室内照明がされていても、明暗センサーが暗いと判別したときは点灯します。

手動点灯 スヌーズボタンは、ライトボタンを兼ねています。ボタンを押すと表示面が約3秒間、自動点灯より明るく照明されます。

### 温度・湿度表示について

本製品は、一般的な家庭やオフィスの室内用です。

○直射日光の当たる場所や冷暖房器具、加湿器、除湿器などの近くを避けてください。

○設置した高さによっても、温度や湿度に違いがでます。

○湿度は「空気のかたまり」として移動するため、同じ室内でも風通しのよい所と悪い所で違いがでます。

○センサーが時計内部にあるため、周囲の温度・湿度の変化をすぐには反映しません。

○1分間隔で測定します。

測定範囲を超えたときの表示

温度 LL.L : -10℃より低温 HH.H : +50℃より高温

湿度 LL : 20%未滿 HH : 95%より高い -- : 測定できない

※湿度は、温度が5℃未滿または50℃を超えるると測定できないため「--」を表示します。

※温度・湿度の厳密な管理、温度・湿度の証明や取引には使用できません。

### 電池の交換について 早めに交換して液漏れを防ぎましょう

注意 電池からの液漏れにより、時計の修理や家具などの修繕に費用が発生することがあります。液漏れや発熱、破裂を防ぐために次のことをお守りください。

- 液晶表示が薄くなったら速やかに指定の電池に交換するか、電池を取り出す。
- 古い電池と新しい電池、種類の異なる電池を混ぜて使用しない。
- 動いていても1年に1回定期的に交換する。電池は照明機能を使用しないと長持ちしますが、放置すると液漏れが発生しやすくなります。
- 電池の⊕⊖を逆に入れない。

### 電波受信機能のON/OFF操作

受信機能 OFF (無効にして手動で時刻を合わせる) リセットボタンを約1秒間隔で3回押してください。○「ピー」と鳴ってから押してください。○OFFになると「ピー」と鳴りません。○日付と時刻は手動で合わせてください。

受信機能 ON (有効にして受信を開始する) 戻るボタンを押しながら、リセットボタンを押すと「ピー」と鳴って受信を開始します。その後に戻るボタンを離してください。○標準電波を定期的に受信して日時を合わせます。

※操作のタイミングによっては、ON/OFFが切り替わらないことがあります。このようなときには操作を繰り返してください。

※電池を入れない状態で、放置すると受信機能はONになります。

### 強制受信について

場所を移動したときなどに、強制受信ボタンを押すと受信を開始します。受信に失敗しても日時やアラーム時刻は継続して表示します。アラーム状態(アラームが鳴っている、スヌーズ中)のときや日時またはアラーム時刻を設定しているとき、受信機能がOFFになっているときは強制受信ボタンを押しても受信を開始しません。